

令和元年度  
横須賀美術館 中間報告書

～多様な学びを生み出す美術館に～

令和元年（2019年）11月

横須賀美術館

# I 美術を通じた交流を促進する

## ① 広く認知され、多くの人にとって横須賀市を訪れる契機となる。

### 【事業計画】

#### 1 展覧会の実施

「広く認知され、多くの人にとって横須賀市を訪れる契機となる。」ための事業の要は企画展です。今年度も、社会教育施設としての役割と交流拠点としての役割を認識し、バランスを考慮した企画展を実施します。

展覧会及び観覧者数（9月末現在）

|             | 展覧会名          | 会期          | 見込(人)   | 実績(人)   | 達成率(%) |
|-------------|---------------|-------------|---------|---------|--------|
| 企<br>画<br>展 | センス・オブ・スケール展  | 4/13-6/23   | 20,000  | 36,292  | 181.5  |
|             | せなけいこ展        | 7/6-9/1     | 28,000  | 63,138  | 225.5  |
|             | サラ・ベルナルの世界展   | 9/14-11/4   | 20,000  | 4,569   | 22.8   |
|             | 版画ワンダーワールド展   | 11/16-12/22 | 8,000   |         |        |
|             | 第72回児童生徒造形作品展 | 1/11-1/27   | 13,000  |         |        |
|             | 長沢明展          | 2/8-4/12    | 9,000   |         |        |
|             | 所蔵品展のみの期間     | 上記以外        | 7,000   | 3,043   | 43.5   |
|             | 計             |             | 105,000 | 107,042 | 101.9  |

#### 2 広報・集客促進事業

展覧会、イベント、ロケーションなど横須賀美術館の魅力をフル活用し、横須賀の交流拠点として集客に取り組んでいきます。そのために、企画展情報だけでなく、美術館の総合的な魅力や外部との連携による地域情報を積極的に発信していきます。

##### (1) 訴求活動による集客促進

・パブリシティを期待した新聞、雑誌等への展覧会リリース

⇒展覧会毎に発送 1展覧会につき約350件

(このほか学校等施設へのちらしの送付 約1,500件)

⇒取り扱い件数(※)

「センス・オブ・スケール展 47件」

テレビ2件、ラジオ2件、新聞14件、雑誌9件、web14件、  
フリー紙6件

「せなけいこ展 34件」

テレビ1件、ラジオ2件、新聞8件、雑誌9件、web7件、フリー紙7件

「サラ・ベルナルの世界展 18件」

新聞8件、雑誌1件、web5件、フリー紙4件

※令和元年度より、横須賀市広報課が行っていた新聞紙の掲載実績報告が廃止され、新聞の掲載数の把握が一部出来なくなりました。そのため掲載紙数が減少しています。

- ・広報よこすか等他部局の広報媒体を活用した情報発信
- ・公共交通機関への広告掲出
- ・ホームページ、ツイッター、フェイスブックを活用した情報発信
- ・インバウンド推進のための外国語情報発信の拡充

(2) イベント開催など展覧会以外の要因で利用者を増やす取り組みの推進

- ・美術館のロケーションを生かした野外イベントの実施
- ・ミニコンサート等、各種イベントの開催

⇒海の広場のオペラ・ガラコンサート開催 (9/28・29)

クリスマスコンサート(開催予定)

マジックワークショップ (開催予定)

- ・年間パスポート、前売券の販売

⇒販売枚数と利用回数 (9月末現在)

|       | 販売場所 | 販売枚数 | 利用回数  |
|-------|------|------|-------|
| パスポート | 美術館  | 344  | 1,048 |
|       | 芸術劇場 | 27   |       |
|       | 計    | 371  |       |
| 前売り券  | 美術館  | 47   | 254   |
|       | 芸術劇場 | 261  |       |
|       | 計    | 308  |       |

(3) 外部連携による集客推進

①他部局との連携

- ・よこすかカレーフェスティバルなどイベントへの参加、協賛による情報発信

⇒観光課 よこすかカレーフェスティバル (5/18-19)

⇒企画課 ヨコスカアーツ&ミュージックフェスティバル (9/14-12/1)

⇒商業振興課 初夏のパパまつり (6/15)、ゆかたDEスカブラ (7/27)

- ・本市社会教育施設等と連携した情報発信、広報

②民間事業者との連携

- ・民間事業者との広報協力、イベント参加、協賛による情報発信

⇒タイアップメニュー (アクアマール、観音崎京急ホテル)

⇒広報協力 (観音崎京急ホテル、ソレイユの丘、うらり、すかなごっそ ほか)

⇒各種学園祭等のイベント協力によるPR

慶応義塾大学学園祭 (矢上祭 10/12-13(中止)、三田祭 11/21-24)、

高千穂大学学園祭 (高千穂祭 10/18-20)

聖心女子大学学園祭 (聖心祭 10/19-20)

日本大学大学学園祭 (法桜祭 11/3-4 砦祭 11/3-4)

獨協大学 (雄飛祭 11/1-2)

東洋大学学園祭 (白山祭 11/3-4)

早稲田大学学園祭 (早稲田祭 11/2-3、理工展 11/2-3)

実践女子大学学園祭 (常盤祭 11/9)  
中央大学学園祭 (白門祭 11/1-4)  
神奈川大学 (神大フェスタ 11/2-3)  
フェリス女学院大学 (Ferris Festival 11/3-4)

- ・ 福利厚生団体等との割引施設契約の実施  
⇒ JAF、JTBベネフィット、リロクラブ、神奈川県厚生福利振興会  
神奈川県市町村職員共済組合 など
- ・ 京急電鉄との連携による「よこすか満喫きっぷ」の利用促進  
⇒ 京浜急行電鉄の発行するよこすか満喫きっぷへの参加  
利用枚数 2,966 枚 (9 月末)

③ 近隣地域との連携

- ・ 町内清掃、防犯パトロールなど地域活動への参加  
⇒ 町内清掃などの地域活動への参加や町内会での美術館PR
- ・ 観音崎全体の魅力を向上させるためのイベントへの参加、協賛  
⇒ 観音崎フェスタへのブース出店 (11/3 予定)
- ・ 地域での消費活動を促進する取り組みの検討  
⇒ 繁忙期、近隣事業者の美術館への出店 (GW、夏休み期間、無料観覧日等)

(4) 団体集客の推進

- ・ 横須賀市観光協会との協力による団体誘致  
⇒ 旅行事業者説明会 予定
- ・ 旅行会社への団体ツアーの企画提案、誘致  
⇒ 旅行事業者営業訪問 予定
- ・ ウェルカムトークの実施  
⇒ ガイダンスは学芸員が対応しているが、ガイダンスを行わない場合でも広報  
担当により簡単に美術館の魅力等を紹介している

(5) 商業撮影の受入と誘致

- ・ ドラマや映画、雑誌等の商業撮影の受入
- ・ 撮影者側のニーズに対応した誘致の実施  
⇒ 受入件数 スチール 3 件 動画 1 件  
今後も当館のPRに繋がる撮影については積極的に受け入れていきたいと考えています。

---

【達成目標】 年間観覧者数 100,000 人以上

---

〔目標設定の理由〕

- ・ 「横須賀市立美術館基本計画」(平成12年6月策定)では、他の公立美術館の実績を参考に、施設の規模、本市の人口などから年間観覧者数を10万人と推定し、開館後の実績としても初年度を除き10万人前後で推移しています。
- ・ そのため当館では、まず観覧者目標を10万人以上とし、展覧会内容のバランスを考えながら展覧会を決定しています。
- ・ 一方、観覧者の見込み数は、展覧会ごとの開催時期や過去に開催したターゲットの近

い展覧会の実績などを勘案し算定しています。

年間観覧者見込みに対する達成状況（9月末）（単位：人）

|               | 平成 29 年度 | 平成 30 年度 | 令和元年度   |
|---------------|----------|----------|---------|
| 見込み (A)       | 105,000  | 104,000  | 105,000 |
| 実績 (B)        | 118,370  | 111,431  | 107,042 |
| 達成率 (B/A×100) | 112.7%   | 107.1%   | 101.9%  |

---

#### 【実施目標】

- ・様々な広報媒体の特性を生かして、効果的な広報活動を実施し、交流を促進する。
- ・各種イベントを開催し、展覧会以外の要因での利用を増やす。
- ・外部連携を推進し、様々な機会と場所を捉えて、美術館の情報を発信する。
- ・旅行会社などへの働きかけを通じて、団体集客を促進する。
- ・商業撮影の受入と誘致を推進し、美術館のイメージアップを図る。

---

#### [目標設定の理由]

- ・横須賀美術館は、本市の貴重な都市資源であり、これを有効活用することは、本市の観光立市の推進という観点からも重要になります。
- ・市内外に積極的に情報を発信して広い層に魅力をアピールすることで知名度や認知度を向上させていくことが必要と考え、実施目標として設定します。
- ・広報、パブリシティ活動にあたっては、当館の利用者層や展覧会ごとのターゲット層に応じた効果的な広報を実施します。
- ・そのために、様々な広報媒体をその特性を踏まえて効果的に活用し、特に若い世代に対しては積極的にツイッターなどのSNSを活用していきます。

## ② 市民に親しまれ、市民の交流、活動の拠点となる。

### 【事業計画】

#### 美術館ボランティア活動の推進

ボランティアが美術館の活動を支援することで、自らのやりがいを見出し、市民の美術への親しみを増す一助となるとともに、市民の交流の場となることを目指し、ボランティア活動の推進を図ります。あわせて、ボランティア自身の美術への理解を深めるための育成を行います。

- (1) ギャラリートーク (GT) ボランティア 年 84 日  
所蔵品展のギャラリートークを行います。(約 62 回)  
\* 研修を実施します。(14 回)  
\* 所蔵品展のレクチャーを実施します。(4 回)  
\* ボランティアの自主研修を支援します。(4 回)  
⇒新規ボランティアを募集し、5 名の応募があり、登録人数は 24 名となりました。  
⇒6 回の研修を行い、36 回のギャラリートークを実施しました。自主勉強(小学生美術鑑賞会ボランティアの研修への参加や所蔵品展展示替期間中の下見)の 4 日間を含めて、計 46 日、延べ 191 名が活動しました(昨年同時期の活動日数は 48 日、活動人数は 199 名です)。
- (2) 小学生美術鑑賞会ボランティア 年 52 日  
小学生美術鑑賞会で来館する小学 6 年生の受入れ、鑑賞補助をします。(約 46 回)  
\* ボランティアを募集し、研修を実施します。(1 回)  
\* 企画展のレクチャーを実施します。(5 回)  
⇒新規ボランティアを募集し、2 名の応募があり、現在の登録人数は 21 名です。  
⇒新規ボランティアを迎えたので、昨年同時期よりも 2 回多い 6 回の研修を行い、7 校の受入に参加しました。自主勉強(ギャラリーボランティアの研修への参加)も含めて計 10 日、延べ 126 名が活動しました(昨年同時期の活動日数は 25 日、活動人数は 132 名です)。なお、学校の来館が少なかったため、昨年同時期よりも活動日数が減っています。
- (3) みんなのアトリエボランティア 年 12 日程度  
障害児向けワークショップ「みんなのアトリエ」の補助をします。  
\* ボランティアを募集します。  
⇒新規に 3 名から応募があり、現在の登録人数は 17 名です。  
⇒「みんなのアトリエ」を 6 回開催し、延べ 18 名が活動しました。
- (4) プロジェクトボランティア 年 30 日程度  
海の広場などを活用した誰でも参加できるイベントを、ボランティアが自ら企画・準備・運営します。  
時期：春、夏、冬の 3 回  
\* ボランティアを募集し、原則として毎月 2 回会議を行います。  
⇒現在の登録人数は 15 名です。  
⇒「ガリバーキャンパス 2019」(4 月 28 日)、海の広場で水あそび 2019」(8 月 18 日)を開催しました。現在は、12 月のクリスマスイベントの開催に向けて準備を

しています。計 13 日、延べ 117 名が活動しました（昨年同時期の活動日数は 14 日、延べ 123 名が活動しました）。

(5) プロジェクト当日ボランティア 年 3 日程度

ボランティアイベント実施の補助をします。

⇒春と夏のイベント当日、2 日間に延べ 8 名が活動しました（昨年同時期の活動は 2 日間延べ 7 名が活動しました）。

美術館ボランティアの活動日等一覧

|     | 活動日                                | 募集     | 研修      | 任期        |
|-----|------------------------------------|--------|---------|-----------|
| (1) | GT:毎週日曜日と祝日(土曜日を除く)<br>研修:原則として木曜日 | 隔年4～5月 | 年間 22 回 | 1 年間(更新有) |
| (2) | 6月～3月の平日<br>研修:木曜日                 | 毎年4～5月 | 年間6回    | 1 年間(更新有) |
| (3) | 毎月第3土曜日                            | 随時     | なし      | 1 年間(更新有) |
| (4) | 原則として毎月第2・4土曜日、イベント準備日・開催日         | 随時     | なし      | 1 年間(更新有) |
| (5) | 年3回                                | イベントごと | なし      | イベント当日限り  |

---

**【達成目標】 市民ボランティアの活動者数および協働事業への参加者数延べ 2,400 人**

---

**[目標設定の理由]**

- ・活動者数および協働事業への参加者数は、「活動が活発に行われているか」「魅力的な活動を企画しているか」をはかるための指標のひとつとなるものです。
- ・平成 30 年度の後半に、ギャラリートークボランティアが新規加入したため、令和元年度研修の回数は 30 年度と同等となることが予測されます。また、小学生美術鑑賞会ボランティアは募集するため、こちらの研修回数も 30 年度とほぼ同等となる予定です。
  - \*ギャラリートークボランティア登録者数 19 名（平成 31 年 3 月末時点）
  - \*小学生美術鑑賞会ボランティア登録者数 21 名（平成 31 年 3 月末時点）
- ・みんなのアトリエボランティアの登録者数自体は増えていますが、アトリエ参加者の定員数に対し、ボランティアは 2～3 名と決まっているので、活動自体は横ばいとなっています。
  - \*みんなのアトリエボランティア登録者数 14 名（平成 31 年 3 月末時点）
- ・プロジェクトボランティアの活動については、30 年度と同等となることが予測されます。
  - \*プロジェクトボランティア登録者数 15 名（平成 31 年 3 月末時点）
- ・年間の活動日数、ボランティアの参加状況、イベント参加者数の動向をふまえ、令和元年度の目標は、延べ 2,400 人とします。

## 市民ボランティア協働事業への延べ参加者数

(単位：人)

|                | 平成 29 年度 | 平成 30 年度 | 令和元年度<br>(目標) | 令和元年度<br>(9月末現在) |
|----------------|----------|----------|---------------|------------------|
| ギャラリートークボランティア | 338      | 433      | 330           | 191              |
| 小学生美術鑑賞会ボランティア | 197      | 269      | 200           | 126              |
| みんなのアトリエボランティア | 21       | 39       | 20            | 18               |
| プロジェクトボランティア   | 272      | 229      | 200           | 117              |
| プロジェクト当日ボランティア | 49       | 26       | 30            | 8                |
| 小計             | 877      | 996      | 780           | 460              |
| ギャラリートーク参加者    | 453      | 656      | 320           | 224              |
| ボランティアイベント参加者  | 1,363    | 855      | 1,300         | 1,093            |
| 小計             | 1,816    | 1,511    | 1,620         | 1,317            |
| 計              | 2,693    | 2,507    | 2,400         | 1,777            |



---

### 【実施目標】

- ・市民が美術館に親しみを感じ、訪れる機会をつくる。
  - ・市民ボランティアが、やりがいを持っていきいきと活動できる場を提供する。
- 

### 〔目標設定の理由〕

- ・市民感覚を持ったボランティアと協働することにより、市民にとって親しみやすい美術館により近づくことができます。また、美術館への親しみ、愛着を持ったボランティアの方々を架け橋として、より広い層の市民に美術館の魅力を知っていただく機会を増やしたいと考えています。
- ・横須賀美術館のボランティア活動は労働ではなく、美術館が担うべき社会教育の一環です。ボランティアがそれぞれの創意と経験を活かし、仲間どうし協力し、美術館ならではの活動をしていくこと、そして、やがてそれが地域の新しいコミュニティとなることを期待しています。
- ・ボランティア活動がより広がるよう努めていきます。例えば、ギャラリートークボランティアの活動の周知や、小学生美術鑑賞会ボランティアやみんなのアトリエボランティアのように、美術館主体の事業に関わっている活動の充実などを検討していきます。

## Ⅱ 美術に対する理解と親しみを深める

### ③ 調査研究の成果を活かし、利用者の知的欲求を満たす。

#### 【事業計画】

#### 1 展覧会事業

優れた美術品を展示し、感動と思索を得る場を提供します。

- (1) 企画展・・・幅広い関心にこたえるため、特定のテーマによる展示を自主事業として、6回開催を予定しています。令和元年度は春には尺度や距離をテーマとした「センス・オブ・スケール展」、夏には逗子在住で、多くのロングセラーを生み出している絵本作家せなけいこ(1932-)による個展を準備しています。秋にはパリのベル・エポックを象徴する「サラ・ベルナールとその時代」を、他に館蔵品を中心とした「版画ワンダーワールド」展、横須賀にゆかりもある現代作家の長沢明展、そして、毎年開催している「児童生徒造形作品展」を予定しています。

#### ① 縮小／拡大する美術 センス・オブ・スケール展

4月13日(土)～6月23日(日)

- ・本展では現代美術を中心に、精密な模型、巨大なオブジェ、広範囲の世界をとらえた写真や絵画、インスタレーションを取り上げ、スケール(尺度や距離)をテーマとした展示を行います。

**⇒計画通り実施し、目標以上の観覧者が訪れました。出品作家や点数が多かったため、作品に対する満足度において高い数値となりました(91.9%)。展示室2と3を撮影可能としたため、SNS上で情報が拡散したことも集客につながりました。**

#### ② 『ねないこだれだ』誕生50周年記念 せなけいこ展

7月6日(土)～9月1日(日)

- ・「いやだいやだの絵本」4冊シリーズで絵本作家デビューした逗子在住のせなけいこの初めての大規模な個展です。代表的な絵本原画や下絵等約300点を展示し、制作のひみつを解き明かします。

**⇒計画通り実施しました。想定していたよりも反響が大きく、観覧者数が63,138人を記録しました。**

#### ③ パリ世紀末ベル・エポックに咲いた華 サラ・ベルナールの世界展

9月14日(土)～11月4日(月・休)

- ・世紀末のパリで活躍した女優サラ・ベルナール。彼女を中心としたベル・エポックの芸術を、写真の他、ミュシャのポスター、ラリックの装身具、本人による彫刻など、日本とフランスから集めた多数の作品や資料をご紹介します。

#### ④ 見る、知る、学ぶ、作る 版画ワンダーワールド

11月16日(土)～12月22日(日)

- ・木版画はもっとも身近な版画技法の一つです。しかしその他の技法について知る機会はあまり多くありません。館蔵品を中心に、版画の技法や多様性を

紹介します。

⑤ 第72回児童生徒造形作品展

2020年1月11日(土)～1月27日(月)

- ・市立の幼、小、中、高、ろう、養護学校全てより選抜された子どもたちが日ごろの授業でつくり上げた平面作品・立体作品など約3,000点を展示します。

⑥ 長沢明展

2月8日(土)～4月12日(日)

- ・新潟に生まれ、横須賀にゆかりのある長沢明。日本画に新風を吹き込む作家として注目され、幅広い制作を行っています。本展は長沢明の初めての公立美術館の個展であり、各時期の代表作に加え、ドローイング、インスタレーションをあわせてご紹介します。

(2) 所蔵品展・谷内六郎《週刊新潮表紙絵》展・・・年4回開催

① 第1期所蔵品展 4月20日(土)～7月7日(日)

特集：怖い絵

⇒特集では、所蔵品から戦争や死をテーマにした作品や恐ろしい姿をした異形の者を描いた作品など見る者の心に恐怖を呼び起こす「怖い絵」を展示。新しい切り口のテーマ展示を試みたが総合の満足度は71.1%と通常より低かった。

② 第2期所蔵品展 7月13日(土)～9月29日(日)

特集：高木修 SPECIFIC SPACE ～特異な空間へ～

⇒市内在住作家・高木修の立体造形作品を、新作2点に加え、他館収蔵の代表作を展示。空間性を意識した高木修作品は、地階北側ギャラリーの高い吹抜けによく映え、多くの反響をいただきました。

③ 第3期所蔵品展 10月5日(土)～12月15日(日)

特集：山崎省三

④ 第4期所蔵品展 12月21日(土)～令和2年4月5日(日)

特集：土屋仁応

2 教育普及事業

知的好奇心の育成と充足の機会を提供します。

(1) 展覧会関連の外部講師による講演会の開催 5回

展覧会を深く理解できるよう、外部講師による講演会を開催します。

- ・開催：土日 定員：各70名程度(先着制)

⇒9月末までに7回の出品作家によるトークショーおよび展覧会関連講演会を開催しました。

- ・「センス・オブ・スケール」展関連「出品作家によるアーティストトーク」、参加者402人(5回の計)。
- ・「せなけいこ展」関連「読絵ん会 せなけいこ寄席」、450人(2回の計)

- (2) ワークショップの開催 6回  
美術への理解を深め、美術館に対して親しみを感じられるよう、多様なテーマによるワークショップを開催します。
- ・ 展覧会に関連したワークショップ 開催：会期ごと 3回
  - ・ 大人向けワークショップ 開催：9月、11月（予定） 3回
  - ・ 開催：土日 定員：各20名程度（事前申込制）
- ⇒9月末までに2回の事業を開催しました。
- ・ 大人向け「九谷焼絵付けワークショップ」、24人。
  - ・ 「サラ・ベルナールの世界展」関連「シャドウボックスでつくるユリの花束」、27人。
- (3) 映画上映会の開催 2回  
優れた映像美術に触れ、多様な表現に親しむことのできる映画会（シネマパーティー）を開催します。
- ・ 開催：2月（予定） 定員：30名×2回（事前申込制）
- ⇒令和2年2月に実施予定です。
- (4) 学芸員による企画展ギャラリートーク 5、6回  
展覧会の趣旨や見どころ、主要作品の解説など展覧会を深く理解していただくことを目的として開催します。
- ・ 企画展毎に1、2回程度 開催：適宜（当日自由参加）
- ⇒当初計画通り、展覧会ごとに順調にギャラリートークを実施しています。
- ・ 9月末までに2回開催、参加者計48人。
- (5) 学芸員による展覧会観覧の案内・解説 随時  
学生・グループなど、観覧にあわせ展覧会をより楽しく観覧できるよう要望に応じて、展覧会の案内・解説を行います。
- また、市内社会教育施設と連携し、必要に応じて市民大学講座などで展覧会や所蔵作品等の講義を行います。
- ⇒団体への案内・解説を要望に応じて行っています。
- ⇒市民大学講座と連携しています。今年度は8月に「サラ・ベルナールの世界展」関連の講座を実施しました。

### 3 美術図書室運営事業

美術図書等約3万冊を揃えた図書室を運営し、利用者サービスをはじめ、美術への興味や理解が深まる場を提供します。

#### (1) 所蔵資料の充実

- ・ 一般的な美術書、子ども向けの美術入門書、展覧会に関連する資料を収集し、幅広い層の利用が可能な蔵書の構築に努めます。
- ・ 貴重な美術雑誌の欠号補充（古書購入）と補修をし、利用と保存に適した状態にします

⇒当初計画通り実施しています(9月末現在受入れ数：図書220冊、カタログ259)

冊、定期刊行物 193 冊)。毎日の配架整理時と蔵書点検時に資料状態を確認し、手入れをしています。

(2) 所蔵資料に関する情報提供

- ・受入れた資料を速やかにデータベースに登録し、来館者が利用する蔵書検索端末に反映させます。
- ・展覧会の開催にあわせた関連資料の紹介を行います。

⇒受入れた資料は速やかにデータベースに登録し公開しています。展覧会関連資料は特集コーナーに展示するとともに、チラシによる内容紹介を行っています。

【達成目標】企画展の満足度 80%以上\*

〔目標設定の理由〕

- ・展覧会を企画・実施することは、美術館にとって基本的な活動のひとつであり、中でも、企画展は、波及効果が高く、最も力を注ぐべき事業といえます。こうした認識から、企画展に対する来館者の満足度を、美術館の社会教育機能の高さを示す目安としました。
- ・満足度は来館者へのアンケートによって算出しており、同じ方法の調査を継続的に行っています。またその満足度の内訳は「作品」「観覧料」「配置・見やすさ」「解説・順路」「心的充足」を計っていて、その総合数値を出しています。
- ・満足度の内訳を見ていくと、「観覧料」「解説・順路」の内の順路については、満足度を上げていくことには限界があり、「作品」「配置・見やすさ」そして解説について改善の余地があります。
- ・ここ数年の数値の変化の経緯を総合的に判断し、目標を 80%以上としました。

※ なお、年度ごとの「企画展満足度」を算出する際には、それぞれの企画展の観覧者数の比率を反映させています。企画展 A の観覧者数を A (人)、企画展 A の満足度を a (%) とするとき、年度ごとの満足度 (%) は

$$(A a + B b + C c + D d + E e + F f) / (A + B + C + D + E + F)$$

で表します。

|        | 平成 28 年度 | 平成 29 年度 | 平成 30 年度 | 令和元年度<br>(9 月末) |
|--------|----------|----------|----------|-----------------|
| 企画展満足度 | 88.0%    | 89.6%    | 87.4%    | 89.9%           |

【実施目標】

- ・幅広い興味に対応するようバランスをとりながら、年間 6 回（児童生徒造形作品展を含む）の企画展を開催する。
- ・所蔵品展・谷内六郎展をそれぞれ年間 4 回、テーマをもたせた特集を組みながら開催する。
- ・知的好奇心を満たし、美術への理解を深める教育普及事業を企画・実施する。
- ・美術への興味や理解が深まる美術関連の資料（図書、カタログ等）を収集し、図書

室で整理・保管し利用者の閲覧に供する。

- ・資料の分類や配架を工夫し、利用しやすい図書室環境の維持に努める。
  - ・主として所蔵作品・資料に関する調査研究を行い、その成果を美術館活動に還元する。
- 

#### [目標設定の理由]

社会教育機関としての美術館は、常に知的好奇心を満足させる事業を行い、また、そのための環境を整えていかななくてはなりません。美術として扱うべき領域はとても広く、利用者の幅広い興味に応えるためには、所蔵品展以外にもさまざまなテーマを設けた企画展を開催する必要があります。作品の借用が許される期間に限度があることなどを考慮し、1カ月半から2カ月程度を目安とした年間6回の企画展を計画・開催しています。また、コレクションの魅力を紹介するために、所蔵品展及び谷内六郎展をそれぞれ年間4回開催しています。

さらに、横須賀美術館では、美術への親しみ、理解を深めるために、講演会やワークショップなど、年間を通じてさまざまな教育普及事業を展開しています。ここでは、広く一般向けの教育普及事業について、評価の対象とします。

これらの事業を企画・実施するための基礎が、調査研究です。範囲は、所蔵作品に関することを中心に、広く美術に関すること、教育普及に関することを含みます。

## ④ 学校と連携し、子どもたちへの美術館教育を推進する。

### 【事業計画】

#### 学校との連携

- 1 中学生のための美術鑑賞教室の実施 夏季休業期間中  
中学生向けに鑑賞ガイドを用意し、学校外での美術を学ぶ場となる美術鑑賞教室を夏休み期間中に開催します。  
⇒中学生の夏休みの宿題をサポートする目的で、鑑賞ガイドの配布と館内ツアーを含む鑑賞教室を行いました。  
⇒7月22日(月)～8月14日(水)全12回の鑑賞教室には、保護者を含め198人が参加しました。参加者数は昨年度115名に対して大幅増となっています。鑑賞ガイドの配布状況は2,120部と、昨年に比べ大きな変動はありません。
  
- 2 「美術鑑賞会」の受け入れ(市内全小学校6年生) 46回  
市立の全小学校6年生を対象に、ワークシートを用いて美術館における美術鑑賞教育となる鑑賞会を開催します。  
⇒年度当初の計画に準じ、順調に受け入れを進めています。
  
- 3 学校で行われる鑑賞活動の支援 学校の要望があるとき  
授業の中で横須賀美術館の所蔵品を活用した授業が実施される際には、学校と連携し、教材活用のサポート、研修、出前授業等を行います。  
⇒9月末まで、7件のアートカードの貸し出しを行いました。横浜市の小中学校および同市の特別支援学校からの問い合わせが昨年度から続いています。
  
- 4 職場体験の受け入れ 学校の要望があるとき  
子どもたちが美術館での仕事を体験する職場体験の受け入れを行います。  
⇒全14校の受け入れ予定のうち、9月末までに6校10人の生徒を受け入れました。
  
- 5 学芸員実習の受け入れ 1回(6日間程度)  
学芸員資格取得を目的とする大学生のために、学芸員実習を行います。  
⇒8月16日(金)～22日(木)の6日間、7人の大学生を受け入れました。
  
- 6 教員のためのプログラム 1回程度  
学校・教員と美術館との連携を促進するため、美術館および所蔵品の活用に関する教員向けの講座を開催します。  
⇒6月に開催し、5人の参加を得ました。参加者に受け身の傾向が強く、事業効果が薄れています。

## 子どもたちへの美術館教育

### 1 ワークショップの開催

8回

子どもたちが美術に親しめるよう、子どもまたは親子を対象としたワークショップを開催します。

開催：5、7、8、1、3月（予定） 定員：1回 20名程度（事前申込制）

⇒9月末までのワークショップ開催回数は7回、参加者数計190人。

- ・「センス・オブ・スケール」展関連「おはなし会 物語の中には、ビックリするような‘大きさ’がたくさん」 75人（2回）。
- ・「せなけいこ展」関連「切り絵でオバケをつくろう」 66人（2回）。
- ・高木修展関連「空間を表現してみよう」 16人。
- ・おやこWS「親子招き猫の絵付け教室」33人（2回）

### 2 映画上映会の開催

2回

気軽に映画を楽しめるよう屋外での映画会（野外シネマパーティー）を開催します。

開催：8～9月（予定） 定員：なし（当日自由参加）

⇒2回とも野外開催で計1,000人の参加者を得ました。

### 3 親子ギャラリーツアーの開催

4～5回

親子で美術鑑賞の楽しみ方を知ってもらうための学芸員によるギャラリーツアーを開催します。

⇒9月末までの親子ギャラリーツアー開催は2回、参加者30人でした。

### 4 保育園との連携

20回

市立保育園10園と連携し、おもに年中・年長の児童に向けた鑑賞プログラムを実施します。園ごとに、学芸員による「出前プログラム」と来館時の「美術館ツアー」の2つを行います。

⇒年度当初の計画に準じ、順調に受け入れを進めています。

---

【達成目標】 中学生以下の年間観覧者数 22,000人

---

#### [目標設定の理由]

子どもたちが美術館に親しみをもち、利用しやすくするため、さまざまな取り組みを行っていますが、その成否は、実際の観覧者数に反映されるはずですが、

従来、横須賀美術館では、一定の質を保った美術展を年間通してバランスよく行うこととし、春～秋には、子どもや家族層にも親しみやすい企画展を1つ以上開催しています。平成30年度は、夏季の「三沢厚彦 ANIMALS IN YOKOSUKA」展を家族・子どもにアピールする展覧会と位置づけ、市立幼・小・中への全児童生徒に配布するなど周知に努めて、一定の成果をあげることができました。前年度の「tupera tupera」展のような爆発的な集客要素がなかったため、年間観覧者数の飛躍的な増加は見られませんでした。年間を通じた安定的な低年齢層の集客状況から見て、親しみやすい展覧会を行なう美術館であるとの評価は定着したものと捉えています。

令和元年度も、4月中旬から9月上旬まで、現代美術展「センス・オブ・スケール」展と絵本作家せなけいこの回顧展の2つを開催し、これらを家族・子ども向けと位置づ



けて集客に努めます。

また、学校連携については、教員を対象とした「美術館活用講座」を引き続き開催するほか、教育指導課と連携しながら「小学生美術鑑賞会」をより充実させるための教員への情報提供を行うなど、多方面で取り組みを進めます。

ただし、市全体の14歳以下の人口は減少傾向で、小学生美術鑑賞会の参加者である市立小学校6年の在籍者数も、開館時から15%ほど下降しています。また、過去数年間の数字の推移から見ても、中学生以下の年間観覧者数の目標値22,000人は妥当な数値と考えられます。したがって、令和元年度も引き続き同等の目標値とします。

中学生以下の観覧者数 (単位：人)

|     | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度<br>(目標) | 令和元年度<br>(9月末現在) |
|-----|--------|--------|---------------|------------------|
| 幼児  | 11,562 | 5,246  | 6,000         | 11,090           |
| 小学生 | 12,335 | 11,748 | 12,000        | 7,958            |
| 中学生 | 3,448  | 3,811  | 4,000         | 3,015            |
| 計   | 27,345 | 20,805 | 22,000        | 22,063           |

⇒「せなけいこ展」が家族層の支持を受け、特に幼児の観覧者数に大きな影響を与えています(令和元年9月末10,724人)。

⇒学校連携の面では、引き続き、質の高い鑑賞支援ができるよう努めていきます。

⇒ワークショップ等の主催事業については、予定通り充実した内容で実施できるよう、努力していきます。

#### 【実施目標】

- ・学校における造形教育の発表の場として、児童生徒造形作品展を実施する。
- ・学校及び関係機関と緊密に連携し、子どもたちにとって親しみやすい鑑賞の場をつくる。
- ・学校との連携を強化し、小学生美術鑑賞会を充実させる。
- ・美術館を活用した鑑賞教育がいっそう充実するよう、アートカードの活用促進をはじめ教員の授業作りに有益な情報提供を積極的に行う。
- ・子どもたちとのコミュニケーションを通じて、美術の意味や価値、美術館の役割などに気づき、考え、楽しみながら学ぶ機会を提供する。
- ・鑑賞と表現の両方を結びつけたプログラムを実施する。

#### [目標設定の理由]

美術教育は表現と鑑賞との両輪によってなりたつものですが、学校教育においては、時間配分の面でも内容の面でも、鑑賞は最小限で、表現が学習の中心になりがちです。

しかし、近年の小・中学校の学習指導要領では、鑑賞教育を重視する傾向が強まっています。平成29年に告示され、現在、移行期間中である新学習指導要領(小学校では2020年完全実施、中学校では2021年完全実施)では、小・中いずれにおいても、美術館・博物館の活用や連携が示されているほか、鑑賞を通して言語活動を充実させるとい

う、これまでの方向を引き継ぎつつ、さらに、校外での児童の作品展示（小中学校）や、学校における鑑賞のための環境づくり（中学校）について、言及があります。こうした状況を踏まえ、美術館は学校のニーズを積極的に汲み上げていく必要があります。

これとともに、美術館としては、学校とは違った美術館ならではのプログラムを通して、子どもたちが美術に親しむ機会の拡充に努めることも重視しています。家族で参加する鑑賞教室やワークショップ、アーティストによる子ども向けワークショップなど、美術館ならではのプログラムを企画、提供し、子どもたちへの美術館教育を推進します。

## ⑤ 所蔵作品を充実させ、適切に管理する。

### 【事業計画】

新たな美術品の収集（寄贈、寄託の受け入れ）を行うとともに、所蔵作品約 5,000 点の管理を行います。

#### 1 美術品の収集（寄贈、寄託の受け入れ）

美術品の収集方針・・・近現代の絵画、版画、彫刻とし、次の基準によります。

- (1) 横須賀・三浦半島にゆかりのある作家の作品
- (2) 横須賀・三浦半島を題材とした作品
- (3) 「海」を描いた作品
- (4) 日本の近現代を概観できる作品
- (5) その他、上記に関連ある国内外の優れた作品

寄贈、寄託の申込のあった作品について、当館の収集方針に合致するかを検討し、作品の来歴や状態を調査します。

収集方針に沿った作品について受入の可否を美術品評価委員会で審議いただき、委員会終了後、収集の承認を受けた作品について受入手続きを行います。

⇒すでに複数件の寄贈申し込みについて検討を進めており、今年度の美術品評価委員会に諮る見込みです。

#### 2 所蔵作品の管理（修復・額装及び作品の貸出）

作品の修復・額装について、作品の状態、展示計画などに即して適切に行います。

作品の貸出について、展覧会内容、会期、巡回先など内容を吟味した上で、適切に手続きを行います。

⇒市役所本庁舎内で展示する作品 1 点について、保全に必要な額調整を進めているほか、今後数点について新規額装を行う予定です。

⇒おかざき世界子ども美術博物館および上田市立美術館で開催された「没後 100 年 村山槐多展」に村山槐多作品 1 点を貸し出したのをはじめ、4 件 14 点の所蔵作品を貸し出しました。

#### 3 環境調査の実施 年 2 回

収蔵庫、保管庫及びその周辺（搬入口、荷受荷解室）、展示室について環境調査を実施します。

⇒5月13日～6月17日、7月22日～8月29日の日程で実施し、おおむね良好な結果を得ました。

#### 4 美術品評価委員会の開催 年 1 回

美術品の収集について、専門的見地から審議いただく美術品評価委員会を開催します。

⇒令和元年度の委員会を 12 月～1 月ごろに開催する予定です。

## 5 美術品等取得基金の運用変更

平成30年度に基金のあり方について検討した結果、令和元年度より美術品等取得基金の運用方法を、定額運用型から積立型に変更しました。また、横須賀市のふるさと納税に美術品等取得基金の項目を追加し、寄附金を基金に積み立てることで、将来の美術品購入の財源とします。(ただし、美術品の購入は令和2年度以降に実施する予定です。)

⇒平成31年4月に美術品等取得基金を新設し、ふるさと納税による寄附金の受け入れを開始しています。9月末までに294,000円の寄附をいただきました。

---

【達成目標】環境調査の実施(年2回)

美術品評価委員会の開催(年1回)

---

[目標設定の理由]

作品収集は、美術館としての基本的な活動のひとつです。ただし、新規収蔵作品の数量の多寡は、状況に左右される部分が大きく、また、多ければ多いほどよい、という性質のものでもないため、数値目標とするにはふさわしくないと考えます。

収集のための情報収集や調査を継続的に行っていれば、受け入れの可否を諮問するために美術品評価委員会を開催することとなります。ここでは、少なくとも年に1回、美術品評価委員会を開催することを、収集活動に関する数値目標とします。

また、収蔵庫と展示室の環境が作品の保管、展示に適しているかどうか調べる環境調査を、年2回実施することを、保管に関する数値目標とします。

---

【実施目標】

- ・収集方針に基づき、主体性を持って積極的な収集活動を行う。
  - ・作品の保管、展示について適正な環境を維持し、そのチェックのため必要な調査を実施する。
  - ・計画的に所蔵作品の修復、額装を行う。
  - ・所蔵作品が広く価値を認められ、他の美術館等で開催する企画展などに活用されている。
- 

[目標設定の理由]

- ・優れた美術品を広く収集し、次世代に伝えてゆくことは、美術館の果たすべき基本的な役割です。そのために、作品の保管、展示のための適切な環境整備と、作品そのものの修復及び保護を行っています。他の機関での展示等の所蔵品の活用は、作品への影響をじゅうぶんに考慮したうえ、可能な範囲で行っています。

### Ⅲ 訪れるすべての人にやすらぎの場を提供する

#### ⑥ 利用者にとって心地よい空間、サービスを提供する。

---

##### 【事業計画】

---

#### 1 運営業務

受託事業者との連携を図り、利用者にとって心地よいサービスを提供します。

- ・受託事業者との定期的なミーティングの実施による情報共有  
(運営事業者連絡会議一月1回、朝礼ー毎日)

⇒計画通りに実施し、連絡不足による問題の解消に努めています。

- ・受託事業者からの業務日報や来館者アンケートに基づく課題の把握  
⇒受付スタッフからの日報を受けて、課題や苦情の把握に努めています。

- ・館内巡回によるスタッフ対応等の確認(毎日)  
⇒職員による巡回をほぼ毎日実施しています。

- ・レストランと連携した企画展ごとのコラボレーションメニュー提供の継続  
⇒継続実施しています。

「センス・オブ・スケール展」

アクアマーレ 「カッペリーニのアラビアータとリガトーニのゴルゴンゾーラ  
クリームソースの盛り合わせ」

「せなけいこ展」

観音崎京急ホテル 「おばけのてんぷら アイスセット」

アクアマーレ 「おばけのてんぷら おばけのフリットミスト」

「サラ・ベルナルの世界展」

アクアマーレ 「ポトフ」

- ・付帯施設(ショップ・レストラン)に対するアンケート結果等を提供し、協力して満足度の向上を図る

⇒月1回の運営事業者会議にてアンケート結果を提供しています。

#### 2 維持管理業務

施設・設備の維持管理に努め、利用者にとって心地よい空間を提供します。

- ・設備担当スタッフ(委託業者)による設備点検(毎日)

⇒継続実施しています。

- ・館内巡回による清掃状況及び施設不具合の確認  
⇒継続実施しています。

- ・施設・設備の不具合箇所に対する早急な修繕および計画的な修繕  
⇒随時または計画的に実施しています。

【令和元年度（9月末）の主な修繕（100万円以上の案件を抽出）】

| 区分 | 案件       | 金額（円）     |
|----|----------|-----------|
| 設備 | 空調熱源設備修繕 | 2,289,600 |
|    | 高圧ケーブル交換 | 2,635,200 |

【達成目標】

- ・館内アメニティ満足度 90%以上
- ・スタッフ対応の満足度 80%以上

【目標設定の理由】

- ・達成目標の適正基準として、それぞれ90%以上、80%以上を設定しました。  
この目標値は、過去の実績を参考に、目標を高く持ちつつも達成が決して不可能ではないと思われる数値であり、言い換えれば、目標値の達成イコールかなりの高水準を維持できていると思われる数値としました。
- ・満足度は、来館者アンケートの質問8項目（アクセス、館内印象、静かさ、スタッフ、休憩所、トイレ・授乳室、清潔感、総合）の内、外部要因や展覧会等の企画内容による影響を受けにくい2項目（スタッフ、総合）を指標として使用しています。
- ・館内アメニティ満足度については、来館者アンケートの質問事項「全体的にみて、館内では気持ちよく過ごせた。」に対する満足度（総合満足度）、スタッフ対応の満足度については、来館者アンケートの質問事項「スタッフの対応・案内は適切だった。」に対する満足度を指標としています。  
なお、原因を究明し改善に役立てるため、24年度から5段階評価に加え、「特によかったところ、よくなかったところ」を具体的に記述していただく欄を設けています。

（単位：％）

|            | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度<br>(9月末) |
|------------|--------|--------|----------------|
| 館内アメニティ満足度 | 92.8   | 95.1   | 92.9           |
| スタッフ対応の満足度 | 86.8   | 88.5   | 87.1           |

【実施目標】

- ・建築のイメージを損なわないよう、じゅうぶんなメンテナンス、館内清掃を行う。
- ・受託事業者と協力して、ホスピタリティのある来館者サービスを実践する。
- ・運営事業者と協力して、付帯施設（レストラン及びミュージアムショップ）を来館者ニーズに応じて運営する。

【目標設定の理由】

- ・横須賀美術館が来館者に好ましい印象を持たれている大きな要因の一つは、周囲の豊かな自然と、その風景と調和したユニークな建物です。しかし、海のそばに立地して

いるため、強い風雨にさらされることも多く、また塩害などによる老朽化が進んでいることも事実です。建築の魅力をいつまでも来館者に伝えていくためには、適切なメンテナンス、清掃を継続していくことが重要です。

- また、スタッフの対応によって、美術館に対する印象は大きく左右されますので、受付・展示監視スタッフ等の受託事業者との緊密な連携を図り、来館者の立場に立ったより良い接客を目指します。
- 美術館を訪れた際の買い物や食事も、来館者の大きな楽しみです。レストラン及びミュージアムショップと連携し、来館者のニーズに即応したサービスの提供がなされるよう、知恵を出し合い、工夫を重ねていきます。

## ⑦ すべての人にとって利用しやすい環境を整える。

### 【事業計画】

- 1 福祉活動講演会の開催 1回  
触察本の制作や彫刻の触察など、誰もが美術に親しむことができるさまざまな研究や事例を紹介していく講演会を開催します。大学等、関連機関への広報を行います。  
⇒フランスから講師を招聘し「視覚障害者と一緒にたのしむ フランスのさわって読む絵本」を開催しました(8月4日(土))。さわる絵本をつくっている当事者やボランティアに向けた広報に力を入れたため、例年より多くの参加者となりました。
  
- 2 福祉関連イベントの開催 2回  
障害の有無に関係なく、誰もが美術や表現活動に親しむことができる福祉関連イベントを開催します。令和元年度は、点字図書館と連携した視覚障害者向けの出張鑑賞会を引き続き行うほか、知的障害者向けワークショップの実施を計画しています。  
⇒昨年に引き続き、横須賀市点字図書館と共催し、谷内六郎作品を活用した視覚障害者のための出張鑑賞会(音声ガイドと触図を用意。申込み不要、自由参加)を実施予定です。申し込み制の茶話会も開催し、視覚障害者と美術館をつなぐきっかけを作ります(「第2回 視覚障害者のための出張鑑賞会 in 横須賀市点字図書館」10月18日(金)、19日(土))。  
⇒市内福祉施設や作業所の利用者を対象としたイベントを企画中です。
  
- 3 障害児向けワークショップ「みんなのアトリエ」の開催 12回  
障害のある子どもたちを対象に、身近にある材料で創作を体験するワークショップを開催します。年度末に、ワークショップ室において一年間の成果を展示します(共同制作した大型作品の展示)。  
⇒6回開催し、利用者はのべ106人となっています。昨年と同様に、美術館HPおよび広報よこすかにおいて月ごとの広報を行っています。新規の参加者、リピーターともに活動に対する満足度を保つよう心がけています。
  
- 4 未就学児ワークショップの実施 1回  
就学前の子どもたちが美術に親しめるようなワークショップを開催します。  
⇒令和2年3月に実施予定です。定員20名×2回。
  
- 5 他館との連携(MULPA) レクチャー等 2回  
近隣美術館(神奈川県立近代美術館、平塚市美術館、茅ヶ崎市美術館)や芸術活動支援団体と連携し、障害者や定住外国人等の表現活動および美術館利用を推進するための事業を実施します。(令和2年度までの継続事業)  
⇒市内福祉施設のスタッフを対象としたレクチャーを企画中です。



## 6 託児サービスの実施

実施

1歳～未就学児を対象に、展覧会の観覧やワークショップ等に参加される保護者向けの託児サービスを実施します。

⇒定期託児と、事業に合わせた託児の募集を行い、7回実施しました。

---

【達成目標】 福祉関連事業への参加者数延べ 360 人以上

---

### 〔目標設定の理由〕

- ・福祉関連の事業は、内容の充実を図るために対象や参加人数を限定する場合があります、そうした場合は参加者数が減ることとなります。しかし、限定したからこそ、対象の特徴に応じたプログラムの計画実施が可能となり、普段美術館を利用しにくい方でも参加することができる事業を行うことができます。
- ・上記のような事情により、福祉関連事業は、その年の事業の性格次第で参加者数の増減が大きくなりがちです。そこで、過去の事業内容と参加者数、令和元年度の事業内容を考慮し、360人以上を令和元年度の目標値としました。

福祉関連事業への参加者数

(単位：人)

|                             | 平成 29 年度          | 平成 30 年度          | 令和元年度<br>(目標) | 令和元年度<br>(9月末)    |
|-----------------------------|-------------------|-------------------|---------------|-------------------|
| 福祉関連講演会                     | 12                | 22                | 40            | 48                |
| 福祉関連イベント                    | 37                | 41<br>14          | 40            | 未                 |
| みんなのアトリエ<br>(障害児者向けワークショップ) | 197               | 255 <sup>※1</sup> | 200           | 106 <sup>※1</sup> |
| 未就学児ワークショップ                 | 33                | 39                | 40            | 未                 |
| 他館連携(MULPA)                 | 133 <sup>※2</sup> | 55 <sup>※2</sup>  | 40            | 未 <sup>※2</sup>   |
| 託児                          | 23                | 19                | 実施            | 実施                |
| 計                           | 435               | 445               | 360           | 154               |

※1 みんなのアトリエ参加者数は、保護者やきょうだい児を含みます。

※2 他館連携は平成 29 年度から令和 2 年度までの実施とし、令和 3 年度以降については、一部事業を継続していくか、他事業と合わせて検討する予定です。

---

### 【実施目標】

- ・年齢や障害の有無などにかかわらず、美術に親んでもらう（環境づくりの）ための各種事業を行う。
- ・必要に応じて、対話鑑賞等の人的サポートを実践する。
- ・展覧会の観覧やワークショップ等に参加される保護者向けの託児サービスについて、積極的に周知し、利用しやすい内容で実施する。

---

### [目標設定の理由]

- ・各種事業を通じて、美術館が健常者のみの施設ではないこと、障害の有無に関わらず美術を楽しむこと、また各年齢や状況に応じた楽しみ方があることを伝えていきたいと考えています。
- ・設備や什器を新規に導入することは難しいため、対話鑑賞のような人的対応によるプログラムを充実させることによって、福祉の充実につなげたいと考えています。
- ・障害者等のニーズを、職員が実践を通して知ることによって、次年度以降の取り組みや長期計画に活かしていきたいと考えています。
- ・子どもを持つ方が安心して美術館事業に参加できるよう、託児サービスを行っています。平成 30 年度より、託児の利用者数を目標値に含めないこととしましたが、託児は引き続き実施されます。乳幼児を持つ人が、それによって美術館利用を妨げられることのないよう、令和元年度も引き続き、適切に託児を実施するとともに、そのための周知に努めることとします。

⑧ 事業の質を担保しながら、経営的な視点をもって、効率的に運営・管理する。

【事業計画】

- ・エネルギーの消費管理を行い、省エネ対策を推進します。  
⇒空調自動制御システムにおいて最大需要電力に制限をかけるデマンド監視を実施。  
省エネに努めている。
- ・四半期毎に消費エネルギーの数値等を職員全員に周知し、コスト意識の啓発を図ります。

【達成目標】 電気使用量、水道使用量、事務用紙使用枚数を直近3年間の平均値を目安とする。

[目標設定の理由]

- ・電気料、水道使用料は、美術館の総事業費の約2割弱を占めることから、達成目標を定め管理していく必要があります。
- ・職員が努力した効果を目に見えて感じることができるよう、電気使用量、水道使用量、事務用紙使用枚数を、直近3年間（H28～H30）の平均値を目安とします。  
これらの使用量は、気候や来館者数等の外的要因によって大きく変動するため、個々の数値目標の達成にこだわるよりも、増減の原因分析をとおして状況把握に努めるための目安値とします。

|                            | 平成 28 年度  | 平成 29 年度  | 平成 30 年度  | 令和元年度<br>(目安) | 令和元年度<br>(9月末) |
|----------------------------|-----------|-----------|-----------|---------------|----------------|
| 総電気使用量<br>(kWh)            | 2,441,219 | 2,539,289 | 2,625,210 | 2,535,239     | 1,385,345      |
| 水道使用量<br>(m <sup>3</sup> ) | 4,394     | 4,608     | 4,635     | 4,546         | 2,732          |
| 事務用紙使用<br>枚数(枚)            | 253,550   | 259,550   | 226,500   | 246,533       | 133,000        |

【実施目標】 職員全員が費用対効果を常に意識し、事業に取り組む。

[目標設定の理由]

- ・サービスを低下させず経費を削減しスリムな運営体制を目指すためには、職員全員が費用対効果を常に意識した行動が必須であると考え、実施目標としました。